

2019年3月2日

2019年度事業計画

I 事業方針

明治38(1905)年に日本山岳会(当時)が創立、55年後の昭和35(1960)年に日本山岳協会(当時)が、日本山岳会と全日本山岳連盟(発展的に解消)によって創立され、その55年後に名称変更の検討が始まり、平成29(2017)年に公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(以下、「JMSCA」(ジムスカ)という。)と改称した。さらにその後を見据えるとき、以下の様に時代に即応した体制が望まれる。

JMSCAは1年後の2020年度には創立60周年を迎える。過去の60年を振り返り、今後の数10年を展望するとき、公益法人としてはもとより、広く国民の側に立った方針のもとに計画を立て、推進していかなくてはならない。

JMSCAは、本来わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全登山を第一に山の環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点としている

登山においては、先鋭的な登山と健康志向の登山、スポーツクライミングにおいてはオリンピックメダルを目指すトップ選手の育成と底辺の拡大を目指す指導者層の充実、これらを如何に融合していくかが課題となる。

誰もがこれらの文化を豊かに享受するために、さらに減遭難、オリンピックメダル獲得のために本協会加盟団体はじめ、関係諸機関・団体等と連携・協力し、その実現に向け努力する。

< 重点項目 >

1. 東京2020オリンピックの出場権を獲得する。また翌年度のオリンピックでの金メダル獲得を確実なものにする強化事業を行う。
2. 「夏山リーダー制度」の浸透を図り、全国展開する。もって以下「3」及び「4」の項目につなげるとともに登山部活動の活発化を図る。
特に8月においてはUIAA認定のための講師としてUIAA登山委員会のSteve Long氏を日本に招き講習会を開催、夏山リーダー制度と連携する。本制度はもとより、本来UIAAについてもPRに努め、JMSCAの存在意義を国民に広く知らしめる。
3. 「ストップ・ザ1000!!」恒常的な山岳遭難件数、死者行方不明者数の増加に対して、具体的な減遭難目標を掲げ、全国的規模で安全登山啓発事業を展開し、遭難件数、死者・行方不明者の軽減に努める。
情報が入りにくい未組織登山者に対しても幅のある広報が出来るように努

める。特に、事故防止の施策について本協会加盟団体をはじめとした関係機関・団体等と連携して、効果的に推進する。

4. 加盟団体への委託事業「少年少女登山教室」事業を中心に登山活動を啓発し、老若男女を問わず、国民の多くが自然に親しみ、しっかりした知識の基に、登山活動に興味を抱き、関心を持って頂ける様、指導者層の充実に努める。
5. スポーツライミング中央競技団体（NF）として、今年度は世界選手権、リード・ワールドカップ大会及び東京 2020 オリンピック大会テスト・イベントなど重要な競技会の開催を求められる。また、東京 2020 オリンピック大会でのメダル獲得に向けた選手強化はもとより、東京大会の盛り上げに向けて、スポーツライミングの価値具現化と、国民への周知拡大に取り組む。
6. スポーツライミングのNFとしてあるべき組織体制として、ガバナンス、インテグリティ、サステナビリティを確保し、国民の負託に応える。
7. 情報発信及び情報伝達が不可欠である。JMSCA 内部の情報伝達が十分機能していなかったことを踏まえ、HP の充実はもとより、さらに有効な手段を用いて JMSCA とはどのような存在か、外に向けて積極的にアピールする。情報伝達のあり方、HP を利用した広報を如何に充実するか課題として捉え充実に図る。
8. 2019 年には 3 月の IFSC 総会、5 月、6 月は本協会理事会、総会、同じく事務所移転、8 月は IFSC 世界選手権と UIAA 認定講習、そしてオリンピックテスト・イベント、9 月中旬は安全登山指導者研修会（東部地区）と JOC ジュニアオリンピックカップ大会、10 月上旬は国体、安全登山指導者研修会（西部地区）、下旬は IFSC ワールドカップと連続的に繁忙の日々が続く。審判・ルートセッター更新研修なども年間で行う。効率よく準備を含めた事業を運営する。

＜ 重点事業—IFSC 世界選手権 ＞

1. 東京 2020 オリンピック大会の選考大会となる世界選手権 2019 は、重要な大会であり、立派に成功させたい。
2. 運営に関しては前項を十分踏まえ IFSC と連携強化し、予算の範囲内に収めると共に NF として大会組織をまとめ、成功に導くよう努める。
3. 8 月という暑い時期と長期間の開催なのでスタッフの健康にも留意する。

II 予算編成方針について

1. 予算編成にあたっては、以下の事項を遵守すること。
 - ① すべての予算は公益法人会計基準に基づき作成する。

- ② 公益目的事業と共益事業の区分を明確にし、公益目的事業費は全予算の 50% 以上になるよう配分する。
 - ③ 公益目的事業を主管する加盟団体には予算範囲内で助成する。
 - ④ 事業計画は、内容及び費用対効果を十分検討し決定する。
 - ⑤ 事業別に収入、支出を明確にして、事業規模を可視化する。
 - ⑥ 予算は収支相償、独立採算を原則とする。
 - ⑦ 選手強化ならびに競技大会費用の予算は、助成金、協賛金等の財源内で決定する。
 - ⑧ 委託事業収入は、平成 30 年度に引き続き登山部門に重点的に配分する。
 - ⑨ 過年度の事業の反省を行い、事業の見直しや新規事業の積極的導入を図る。
 - ⑩ 新規事業導入に際しては財源確保、市場ニーズなどを十分検討し決定する。
 - ⑪ 参加費、登録費、出版物等には、消費税を外税で加算する。
 - ⑫ 専門委員会の交通費予算を委員会管理費に計上する
2. 会計上の事項として以下の点を継続して処理する。
- ① 減価償却、賞与引当金引当、退職給付引当金引当。
 - ② 消費税は年度決算で引当計上し 5 月末までに申告納付を行う。消費税率変更に対しても速やかに対処する。
 - ③ 内閣府や上部団体には 6 月末までに事業報告、会計報告を行う。

Ⅲ 組織の運営について

組織管理運営規程が整い、理事体制も整備及び強化されつつある。総務部、登山部、スポーツクライミング部の三部体制を基に新たな事業両輪体制下で、各部所属委員会は横の連絡を密にし、事業を企画・立案し推進していく。

理事は、登山界、スポーツクライミング界の情報を収集し、協会の事業推進、運営に必要と思われる事項に関し積極的に提案を行う。業務執行理事はさらに協会事業の改善と推進に責任を持ち、今後の方向性を見据えて行動する。本協会加盟団体とも意思の疎通を図り、協力して事業をスムーズに展開する。

(1) 関係団体との連携

スポーツクライミング人気の高まりとともにクライミングジム（商業ジム）軒数が著しく増加した。NF として、選手登録事業、若手発掘、共同事業提携先等として、積極的にクライミングジムとの連携を図る。

IF とは常に緊密な連携をとり、世界におけるスポーツクライミング競技に関する迅速、的確な情報収集を心がけ、国内の上部団体であるところのスポーツ庁、JSPO、JOC、JSC、JWG ならびに国内各関連機関、団体と連携を取り協力する。

登山においては、国内山岳四団体、関係各省庁、国立登山研修所（安全登山指導者研修会等で協力）その他民間企業と必要に応じて連携し、登山事業の推進に努める。

(2) 総務部

組織の要との自覚を持ち、協会の広報、財務、ならびに共済事業の管理運営を行う。

広報委員会が前面に出て協会としての発信、アピールについて検討し行動する。

財務は、事業が増えることもあり、特に日ごろの出納の推移に目を配る。

(3) 登山関連事業

登山部会が動き出しており、さらに発展的な取り組みを行う。

登山人口に比し、10万人前後と推定される組織登山者への安全登山啓発運動の限界が注目されている中で、山岳遭難事故と遭難者・行方不明者数の減少に寄与できる事業の充実を図る。また、山岳指導者育成と安全登山教育・啓発体制の見直しは喫緊の課題であることを念頭に安全登山対策事業を構築していく。

(4) スポーツライミング関連事業

スポーツライミングを担当する理事の数が相対的に増加した。競技大会の拡充、選手の育成と強化、公認大会の推進、を積極的に展開し、東京2020オリンピック大会におけるメダル獲得に邁進し、パリ2024オリンピック大会へのレガシーを残す。

IV 財政基盤の確立について

事業を実施するには、安定した財源の確保と、不要不急の出費削減が必要であることは論を待たない。役員、委員一人ひとりが常に意識し、事業の構築にあたっては歳入の確保を念頭に置き、収支相償に務めることが肝要である。

さらに、スポンサーとの信頼関係に基づく協賛金の獲得、新規スポンサーの確保等を通じて安定財源基盤の確立に努める。また、JOC、JSC、その他民間の助成団体に対し積極的にアプローチし、事業に対する理解と支援を得る。

財政基盤の確立の取り組みとして：

- ① 受取会費及び山岳共済会等の自主財源の大幅な伸びが期待できない状況下で、国庫・県補助金等を積極的に活用し、併せてマーケティング活動による協賛金、各種大会参加者増、登録料、参加料の見直し、広告料収入の拡大を図る。
- ② CLUB JMSCA ITADAKI 制度を活用して会員増加に努める。
- ③ 公認大会申請の増加を促し、資金の一部とする。
- ④ 協会運営賛同者にも継続的に募金活動を行う。応募はHPに掲載する。
- ⑤ 新規協賛社の獲得のため、特別協賛プログラム（個別事業）を企画立案し実施する。
- ⑥ 本協会創立60周年記念事業に募金活動の推進を図る。
- ⑦ 各種登録、認定に伴う物品や書籍販売等を積極的に行う。
- ⑧ その他各種公認事業。

2019年5月下旬事務所移転を予定しております。

V. 事業内容

1. 安全登山普及事業

網掛けは JSC 補助事業

(1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山部関連

①第 63 回全国高等学校登山大会の開催 2019 年 8 月 2 日 (金) ～6 日 (火)

宮崎県高千穂町 祖母山系

②第 10 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12 月 21 日 (土) ～22 日 (日) 埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催 (委託実施)

未実施の岳連 (協会) への積極的な取り組みをお願いしたい。

②「ジュニア普及情報交換会」開催

2020 年 2 月 15 日 (土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

③「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山 2019」

2019 年 8 月 国立立山青少年自然の家、立山周辺

④「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊 2020」

2020 年 3 月 国立那須甲子青少年自然の家

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・2019 年度実施各競技大会入賞者 (1 位～3 位) 表彰

・第 58 回全日本登山大会功労者特別表彰 (10 回以上の参加者) 及び開催地関係者への感謝状 (団体) 贈呈

・2019 年度永年参与感謝状贈呈

・2019 年度功労者特別表彰 (2020 年新春懇談会時)

・第 9 回日本山岳グランプリの公募と顕彰

・2019 年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

朝日スポーツ賞、日本スポーツ賞、毎日スポーツ人賞、ビッグスポーツ賞、ミズノスポーツメントール賞、日本スポーツグランプリ等

・2019 年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦

・2019 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦

- ・2021年度叙勲及び褒章候補者の推薦
- エ) 2019年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)
- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援
- カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

普及委員会

ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施

- ① 東部地区(北海道、岐登牛山・旭岳周辺) 9月14日(土)～16日(祝月)
- ② 西部地区(大阪、神戸セミナーハウス周辺) 10月12日(土)～14日(月)

イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)

- ① 高等学校等登山指導者夏山講習会

8月7日(水)～9日(金) 国立登山研修所及び室堂周辺

- ② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会(仮称)

2020年2月22日(土)～23日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センター

- ③ 安全登山サテライトセミナー

東京会場: 12月14日(土)～15日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

滋賀会場: 7月13日(土)～14日(日) 大津市内

福岡会場: 11月16日(土)～17日(日) 福岡市内

- ④ 積雪期登山基礎講習会

2020年2月7日(金)～9日(日)、国立登山研修所及び周辺山城

ウ) 第58回全日本登山大会の開催

9月28日(土)～30日(月) 岐阜県 高山市、下呂市

乗鞍岳、西穂高岳独標、御嶽山、福地山、五色ヶ原ほか

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

- ① 西部地区(富山県・国立登山研修所) 9/6(金)～8(日)

- ② 東部地区(群馬県・土合山の家) 1/24(金)～26(日)

イ) 研修及び研究会

- ① 遭対常任研修会 8月24(土)～25日(日)、2020年3月28(土)～29(日)

- ② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6/29(土)～30(日)

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

エ) 平成2019年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他)7月5日(金)文

部科学省

- オ) 山岳保険加入者の事故調査 (報告書作成/HP掲載)
- カ) 遭難事故の調査研究
 - ・ 遭難事故に関する調査研究 (委託事業)
 - ・ 遭難事故の科学的分析
- キ) 遭難事故科学的研究支援
 - ・ IMSAR 研究助成支援 (継続)

国際委員会

- ア) 国際委員全体会議 (仮称) 兼第 58 回海外登山技術研究会
6 月 22 日 (土) ~ 23 日 (日) 目黒区東山大橋会館
- イ) 海外登山懇談会
11 月 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ウ) 支援事業
ウィンター・クライマーズ・ミーティング (国内) の支援
2020 年 2 月

(4) 登山指導者育成事業 (指導委員会)

- ア) 指導員研修会
 - ① 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
4 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日) 富士山
 - ② 全国指導委員長会議
6 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日) 東京海員会館
 - ③ 登攀技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
10 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日) (一社)大阪府山岳連盟
 - ④ 氷雪技術常任委員研修会
2020 年 3 月 群馬県・谷川岳
 - ⑤ 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・上級指導員養成講習会)
2020 年 2 月 15 日 (土) ~ 16 日 (日) 大山
 - ⑥ SC 指導員及び上級指導員養成講習会 場所未定年 2 回
 - ⑦ SC コーチ養成会 (補講) 関東地区にて年 1 回
 - ⑧ 公認山岳指導員及び上級指導員、主任検定員の養成
 - ⑨ 指導・遭対委合同研修会 8 月 17 日 (土) ~ 18 日 (日) 神奈川県山岳スポーツセンター
2020 年 3 月 — 神奈川県山岳スポーツセンター
- イ) 主任検定員養成講習会
 - ・ SC 主任検定員養成講習会 未定

- ・山岳主任検定員養成講習会 未定
- ウ) UIAA 認定のための査察(UIAA 担当者来日)
8月12日(月)～21日(水) 那須
- エ) 委員会等
 - ①夏山リーダー講習会の実施
 - ②指導常任委員会 毎月第1月曜日
- ウ) 国立登山研修所事業への協力

2. スポーツライミング事業

- 全国競技委員長会議の開催 4月7日(日)
- 下記事業について SC 医科学委員会サポート

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

- ①FISE WORLD SERIES Hiroshima 2019(エクストリームスポーツ国際フェスティバル)
4月19日(金)～21日(日) 広島市・旧市民球場跡地
- ②スポーツライミング・ボルダリングユース日本選手権鳥取大会 2019
5月18日(土)～19日(日) 鳥取県倉吉体育文化会館
- ③スポーツライミング・第2回コンバインド ジャパンカップ
5月25日(土)～26日 愛媛県西条市石鎚クライミングパーク SAIJO
- ④IFSC 世界選手権 2019 (強化事業の項参照)
8月10日(土)～22日(木) エスフォルタアリーナ八王子
- ⑤オリンピックテストイベント
8月30日(金)～9月1日(日) 青海アーバンスポーツパーク
- ⑥ スポーツライミング・第22回 JOC ジュニアオリンピックカップ
9月14日(土)～16日(日) 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター
- ⑦IFSC リードワールドカップ印西大会 2019
10月26日(土)～27日(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館
- ⑧第10回全国高等学校選抜スポーツライミング選手権大会(「青少年育成事業」の項参照)
12月21日(土)～22日(日) 埼玉県加須市民体育館
- ⑨スポーツライミング・第15回ボルダリングジャパンカップ
2020年2月8日(土)～9日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
- ⑩スポーツライミング・第2回スピードジャパンカップ

2020年2月22日(土)～23日(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ

⑪スポーツクライミング・第33回 リードジャパンカップ2020

2020年3月7日(土)～8日(日) 埼玉県加須市民体育館

⑫スポーツクライミング・リードユース日本選手権印西大会2019

2020年3月21日(土)～23日(月) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に沿った国体山岳競技の検討

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 4月20日(土)～21日(日) 第74回茨城国体第1回基準会議、茨城県鉾田町
- ② 6月7日(金)～9日(日) 第74回茨城国体第2回基準会議、茨城県鉾田町
- ③ 6月8日(土)～9日(日) 第74回茨城国体リハーサル大会(第6回日本学生スポーツクライミング(L/B)対抗選手権大会) 茨城県鉾田町総合公園
- ④ 9月8日(日) 組合せ抽選会 場所、移転後に決定
- ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ⑥ 10月4日(金)～6日(日) 第74回茨城国体山岳競技、茨城県鉾田町総合公園
- ⑦ 第74回茨城国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

- ①代表(S、A、B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

- ①IFSCクライミングWC

4月～11月 世界各地

- ②IFSC世界選手権(競技会運営事業の項参照)

8月10日(土)～22日(木) エスフォルタアリーナ八王子

- ③IFSC世界ユース選手権

8月22日(木)～8月31日(土) イタリア・アルコ

- ④ 世界アーバンゲームズ

9月予定 アメリカ・ロスアンゼルス

- ⑤ ANOCビーチゲームズ

10月10日(木)～11日(金) アメリカ・サンディアゴ

- ⑥ オリンピック予選大会

11月28日(木)～12月1日(日) フランス・トゥールーズ

⑦ アジア選手権

日程未定 ジャカルタ・バレンバン

⑧ アジアユース選手権

10月3日(木)～6日(日) インド・ブバネシュワール

11月14日(木)～17日(日) 中国・重慶

エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)

キ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード)への取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業

各種競技会・国体体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロック別研修会
講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催(2月) 全国ルートセッター研修会

・第1回:9月17日(火)～19日(木)の後 富山県南砺市桜ヶ池cc

・第2回:12月23日(月)～25日(水) 埼玉県加須市民体育館

イ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会

(5) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施(JADAに委託)

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援

④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(6) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催(随時)

(7) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC主催委員会等出席

3. 登山関連・競技会運営事業

(1) 山岳スキー、スカイ/トレラン普及・振興

① 第13回日本山岳スキー競技選手権大会（山岳スキー委員会）

2020 イラン開催アジア選手権代表選考会

4月6日（土）～7日（日） 小谷村柵池高原スキー場

② ISMF（国際山岳スキー連盟）アジア選手権派遣支援

③ （一財）日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、（一社）

日本スカイ

ランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業（国際委員会）

ア) 国際交流

訪日する外国登山代表団との交流

イ) 派遣他

① BMC International Climbers Meet への派遣（夏）

5月12日（日）～19日（日）英国・ノース・ウエールズ

② UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

(2) 医・科学支援事業（登山部医科学委員会）

ア) JSP0 公認スポーツドクター養成支援（受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席）

イ) UIAA MedCom

① UIAA MedCom Meeting への出席

ウ) JMCSA が支援している医科学的諸事業

① 国際認定山岳医研修会

② 日本登山医学会認定山岳医研修会

③ NPO 富士山測候所を活用する会

④ JSMM 登山者検診ネットワーク

⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

① トレラン大会の安全基準作成のための調査研究

② 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

(1) 山岳環境保全事業（自然保護委員会）

ア) 研修及び研究会

- ①平成 31 年度自然保護委員総会（第 43 回山岳自然の集い）
2019 年 9 月中旬 宮城県予定
- ②国際自然保護研修会
5 月 20 日(月)～24 日(金) 韓国濟州島
- ③第 8 回自然保護指導員研修会
2020 年 1 月 26 日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- イ) 自然保護の啓発
 - ①自然保護指導員制度の推進
 - ②全国環境月間(6 月)の実施
 - ③環境省・自然公園指導員制度への協力
 - ・自然公園指導員の推薦
 - ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
 - ・山岳団体自然環境連絡会への参加
 - ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
 - ・各種環境保護事業の後援と派遣
 - ⑤日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

5. 共益事業

(1) 広報等

- ア)『登山月報』毎月 15 日定期発行 第 601 号(4 月号)～第 612 号(3 月号)
- イ) HP のタイムリーな更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
 - ①英文コーナーの新設

(2) 会議等

- ア) 総会 6/16(日)
- イ) 理事会 第 1 回 5/26(日)
 - 第 2 回 6/16(日)(総会終了後)
 - 第 3 回以降 年度始めに決定
- ウ) 全国理事長会議 2020 年 2/16(日)
- エ) 全国参与会 9/28(土) 岐阜県高山市(第 58 回全日本登山大会開催時)
- オ) 顧問・参与会 2020 年 1/11(土) 東京・アルカディア市ヶ谷(新春懇談会開催時)
- カ) 常務理事会 定例会年度始めに決定
- キ) 委員長会議
- ク) 常任委員会 毎月 1 回以上開催
- ケ) 事務局会議(随時)

- コ) 新春懇談会 2020年1/11(土) アルカディア市ヶ谷
- サ) 山岳4団体懇談会 7/*(*)
- シ) (一財)全国山の日協議会(随時)
 - ・第4回「山の日」記念全国大会 8/10(土)～11(日) 山梨県甲府市
- ス) 国際会議
 - ① 国際山岳連盟(UIAA)理事会 5/2(木)～7(火) マルタ
 - ② 国際山岳連盟(UIAA)総会 11/2(土)～7(木) キプロス
 - ③ アジア山岳連盟(UAAA)理事会 6/1(土)～5(水) 台北
 - ④ アジア山岳連盟(UAAA)総会 10月 キルギス
 - ⑤ 国際山岳連盟登山部会 *～*
 - ⑥ 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)総会 3月
 - ⑦ 国際スキー連盟総会 6月

(3) 総務等

- ア) 平成31年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- イ) 議事録の整備
- ウ) 山岳保険のPR(山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- エ) NF体制の改革を図り、事務局体制の強化を行う。
- オ) 組織充実強化のための方策検討
- カ) 日山協・会員のデータベース化の検討

(4) 財政等

- ア) 財源の確保
 - ① ロイヤリティー収入源の具体策を検討
 - ・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討
- イ) 外部資金の導入
 - ① グローバル・パートナーの獲得
 - ② 競技関係の協賛企業の獲得
 - ③ 創立60周年記念事業募金活動
 - 税額控除の活用して推進する
- ウ) 常務理事会において毎月の収支決算の報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会(事務センター)の運営管理・山岳共済会会計
- カ) 監事監査 期末監査:5/15(水)～16(木)、中間監査:10月
- キ) 中間決算と補正予算について 11月
- ク) 2020年度予算案の作成 2020年1月

以上